Bose® Solo 15/10 series II
TV sound system

オーナーズガイド

安全上の留意項目

このオーナーズガイドに記載された内容をよくお読みください。また、必要なときにすぐご覧になれるように、大切に保管しておくことをおすすめいたします。

正三角形に矢印付き稲妻マークが入った表示は、製品内部に電圧の高い危険な部分があり、感電の原因となる可能性があることをお客様に注意喚起するものです。

正三角形に感嘆符が入った表示は、製品本体にも表示されている通り、このオーナーズガイドの中に製品の取り扱いとメンテナンスに関する重要な項目が記載されていることをお客様に注意喚起するものです。

警告:

- 火災や感電を避けるため、雨の当たる場所や湿度の高い場所で製品を使用しないでください。
- 水漏れやしぶきがかかるような場所でこの製品を使用しないでください。また、花瓶などの液体が入った物品を製品の上や近くに置かないでください。他の電気製品と同様、製品内に液体が侵入しないように注意してください。液体が侵入すると、故障や火災の原因となることがあります。
- 火の付いたろうそくなどの火気を、製品の上や近くに置かないでください。
- お子様がAVモニターを押したり引いたり上に登ったりすることがないようご注意ください。モニターが転倒し、深刻なけがや死亡事故を引き起こす危険性があります。安全性および設置の安定性向上のため、モニターに付属している転倒防止用ストラップを取り付けることをおすすめします。
- 機器を不安定な場所に置かないでください。機器が落下して、深刻なけがや死亡事故を引き起こす危険性があります。お子様の身に起こるものを含めた多くのけがは、簡単な予防措置で防ぐことができます。
  - 機器のメーカーが推奨する設置台やスタンドを使用してください。
  - 機器をしっかりと支えることができる設置台を使用してください。
  - 設置台からはみ出した状態で機器を置かないでください。
  - 機器を食器棚や本棚などの上に設置する際は、それらの家具と機器を適切な方法で壁に固定してください。
  - 機器を設置台の上に置く場合は、機器の下に布などを敷かないでください。
  - お子様に対し、機器をいじったり設置台の上に登ったりした場合の危険について、十分にご説明ください。
  - 本製品の設置作業の安全性に不安がある場合は、専門の設置業者にご相談ください。

警告:

- **Solo 10 series II systemのリモコン:** 電池を飲み込まないでください。化学薬品によるやけどを負う恐れがあります。
  この製品に付属のリモコンにはボタン電池が使用されています。ボタン電池を飲み込むと、体内で2時間以内に深刻なやけどを負って生命を脅かす恐れがあります。電池はお子様の手の届かないところに保管してください。バッテリーカバーがきちんと閉まらない場合は、リモコンの使用をやめてお子様の手の届かないところに保管してください。電池を飲み込んだり、身体の中に入ってしまったと思ったら、すぐに医師の診断を受けてください。リモコンの電池を誤って取り扱ったり、誤って交換した場合、破裂や火災、化学物質で皮膚が侵される危険性があります。また、分解や充電、焼却を行ったり、100℃以上の熱を与えないようにしてください。3Vリチウムボタン電池の CR2032またはDL2032に交換してください。使用済みの電池は速やかに処分してください。
- **Solo 15 series II systemのリモコン:** バッテリーを分解したり、切断したりしないでください。バッテリーを熱源や直火にさらさないでください。直射日光の当たる場所に保管しないでください。バッテリーをショートさせないでください。箱や引き出しの中など、バッテリー同士や他の物との間でショートする危険性がある場所に、バッテリーを保管しないでください。バッテリーは、使用するまで元のパッケージに保管してください。バッテリーに衝撃を与えないでください。バッテリーが液漏れしている場合は、漏れた液に触れたり、目の中に入らないようにしてください。液が体に付着した場合は水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。バッテリーと機器の＋極と－極の表示を参照し、正しく使用されていることを確認してください。指定されたバッテリー以外のものを製品に使用しないでください。バッテリーはお子様の手の届かないところに保管してください。バッテリーを飲み込んでしまった場合は、ただちに医師の診断を受けてください。必ず正しい種類のバッテリーをご購入ください。バッテリーは清潔で乾いた状態に保ってください。電極部分が汚れた場合は、乾いた清潔な布で拭いてください。バッテリーは使用目的に沿った方法で使用してください。使用時以外はバッテリーを機器から外してください。バッテリーを交換する場合は、単三形(IEC LR06)アルカリ乾電池のみを使用してください。

注意: 許可なく製品を改造しないでください。安全性、法令の遵守、およびシステムパフォーマンスを損なう原因となり、製品保証が無効となる場合があります。

警告: この製品には磁性材料が含まれています。埋め込み型医療機器の動作に影響があるかどうかについては、医師にご相談ください。

警告: のどに詰まりやすい小さな部品が含まれています。3歳未満のお子様には適していません。

注記:

- 製品ラベルは本体の底または裏面にあります。
- 万一の事故や故障に備えるために、電源プラグはよく見えて容易に手が届く位置にあるコンセントに接続してください。
- この製品は室内専用機器です。屋外、RV車内、船上などで使用するようには設計されていません。また、そのような使用環境におけるテストも行われていません。

Bose Corporation hereby declares that this product is in compliance with the essential requirements and other relevant provisions of Directive 1999/5/EC and all other applicable EU directive requirements. The complete declaration of conformity can be found at: www.Bose.com/compliance

使用済みの電池は、お住まいの地域の条例に従って正しく処分してください。焼却しないでください。

安全上重要な指示

1. このガイドをよくお読みください。
2. 必要なときにご覧になれるよう、本書を保管してください。
3. すべての注意と警告に留意してください。
4. すべての指示に従ってください。
5. この製品を水の近くで使用しないでください。
6. お手入れは乾いた布を使用し、ボーズ社の指示に従って行ってください。
7. 通気孔は塞がないでください。ボーズ社の指示に従って設置してください。
8. ラジエータ、暖房送風口、ストーブ、その他の熱を発する装置(アンプを含む)の近くには設置しないでください。
9. 電源アダプターやコードが踏まれたり挟まれたりしないように保護してください。特に電源プラグやテーブルタップ、機器と電源コードの接続部などにはご注意ください。
10. 必ずメーカーにより指定された付属品、あるいはアクセサリーのみをご使用ください。
11. 雷雨時や長期間使用しない場合は、電源プラグを抜いてください。
12. 修理が必要な際には、カスタマーサービスにお問い合わせください。製品に何らかの損傷が生じた場合、たとえば電源アダプターやコードの損傷、液体や物の内部への落下、雨や湿気などによる水濡れ、動作の異常、製品本体の落下などの際には、ただちに電源プラグを抜き、修理をご依頼ください。

This symbol means the product must not be discarded as household waste, and should be delivered to an appropriate collection facility for recycling. Proper disposal and recycling helps protect natural resources, human health and the environment. For more information on disposal and recycling of this product, contact your local municipality, disposal service, or the shop where you bought this product.

Note: This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

Changes or modifications not expressly approved by Bose Corporation could void the user's authority to operate this equipment.

This device complies with part 15 of the FCC Rules and Industry Canada license-exempt RSS standard(s). Operation is subject to the following two conditions: (1) This device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

This Class B digital apparatus complies with Canadian ICES-003.

CAN ICES-3 (B)/NMB-3(B)

This device complies with FCC and Industry Canada RF radiation exposure limits set forth for general population. It must not be co-located or be operating in conjunction with any other antennas or transmitters.

This equipment complies with FCC/IC radiation exposure limits set forth for an uncontrolled environment. This equipment should be installed and operated with minimum distance 20cm between the radiator and your body.

Management Regulation for Low-power Radio-frequency Devices
Article XII
According to "Management Regulation for Low-power Radio-frequency Devices" without permission granted by the NCC, any company, enterprise, or user is not allowed to change frequency, enhance transmitting power or alter original characteristic as well as performance to an approved low power radio-frequency devices.

Article XIV
The low power radio-frequency devices shall not influence aircraft security and interfere legal communications; If found, the user shall cease operating immediately until no interference is achieved. The said legal communications means radio communications operated in compliance with the Telecommunications Act.
The low power radio-frequency devices must be susceptible with the interference from legal communications or ISM radio wave radiated devices.

Names and Contents of Toxic or Hazardous Substances or Elements

	Toxic or Hazardous Substances and Elements					
Part Name	Lead (Pb)	Mercury (Hg)	Cadmium (Cd)	Hexavalent (CR(VI))	Polybrominated Biphenyl (PBB)	Polybrominated diphenylether (PBDE)
PCBs	X	O	O	O	O	O
Metal parts	X	O	O	O	O	O
Plastic parts	O	O	O	O	O	O
Speakers	X	O	O	O	O	O
Cables	X	O	O	O	O	O

This table is prepared in accordance with the provisions of SJ/T 11364.

O: Indicates that said hazardous substance contained in all of the homogeneous materials for this part is below the limit requirement of GB/T 26572.

X: Indicates that said hazardous substance contained in at least one of the homogeneous materials used for this part is above the limit requirement of GB/T 26572.

控えとして、製品のシリアル番号を下の欄にご記入ください。
シリアル番号は、本体の底または裏面とリモコンのケースに記載されています。

リモコンのシリアル番号:_____

システムのシリアル番号:_____

購入日:_____

このガイドとともに、ご購入時の領収証を保管することをおすすめします。

製造日: シリアル番号の太字で表記されている1桁目の数字は製造年を表します。「5」は2005年または2015年です。

中国における輸入元: Bose Electronics (Shanghai) Company Limited, Part C, Plan 9, No. 353 North Riying Road, China (Shanghai) Pilot Free Trade Zone

EUにおける輸入元: Bose GP, Castleblayney Road, Carrickmacross, Ireland

台湾における輸入元: Bose Taiwan Branch, Room 905, 9F, Worldwide House, 131 Min Sheng East Rd, Section 3, Taipei, Taiwan, 105

Bluetooth®のワードマークとロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標で、Bose Corporationはこれらの商標を使用する許可を受けています。

Blu-ray Disc™およびBlu-ray™はBlu-ray Disc Associationの商標です。

この製品はDolby Laboratoriesのライセンスに基づいて製造されています。DolbyおよびダブルDマークはDolby Laboratoriesの商標です。

HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface、およびHDMIのロゴはHDMI Licensing, LLCの米国および他の国々における商標または登録商標です。

©2015 Bose Corporation. 本書のいかなる部分も、書面による事前の許可のない複写、変更、配布、その他の使用は許可されません。

目次

はじめに

Solo 15/10 series II TV sound systemについて 5
システムの特長 5
内容物の確認 5

システムのセットアップ

システムを設置する 6
ケーブルを選択する 6
テレビを接続する 6
システムを接続する 7
オプション1: 光ケーブル(推奨) 7
オプション2: 同軸ケーブル 7
オプション3: アナログケーブル 7
電源の接続 7
システムの上にテレビを設置する 8
システムの設置例 8
テレビの内蔵スピーカーをオフにする 8
システムの電源を入れる 8
テレビの内蔵スピーカーがオフになっていることを確認する 8

システムの使用

Solo 15 series II system用ユニバーサルリモコンを使用する 9
ユニバーサルリモコンの設定 10
電源ボタンをカスタマイズする 10
外部機器を切り替える 10
機能ボタン 10
Solo 10 series II system用リモコンを使用する 11
テレビと*Bluetooth*®対応機器を切り替える 11
Solo 15 series II system用ユニバーサルリモコン(オプション) 12
他社製リモコンをプログラムする 12
音量の調節 12
低音の音量を調節する 12
低音の音量を元に戻す 12
ダイアログモード 12
自動ウェイク機能 12

Bluetooth®

Bluetooth®対応機器をペアリングする 13
ペアリングした*Bluetooth*®対応機器に接続する 13
接続機器を切り替える 13
システムの*Bluetooth*®ペアリングリストを消去する 13

システムの動作状態の確認

システムのインジケーターについて 14
ステータスインジケーター 14
Bluetooth®インジケーター 14

別のセットアップ方法

テレビに接続した機器から音が出ない 15
テレビに光ケーブルまたは同軸ケーブル用出力やアナログ音声出力がない 15

お手入れについて

故障かな？と思ったら 18
リモコンの電池を交換する 19
Solo 15 series II systemのリモコン 19
Solo 10 series II systemのリモコン 19
お手入れについて 19
お問い合わせ先 19
保証 19
仕様 19

Solo 15/10 series II TV sound systemについて

Solo 15/10 series II systemには、次の2種類の構成があります。

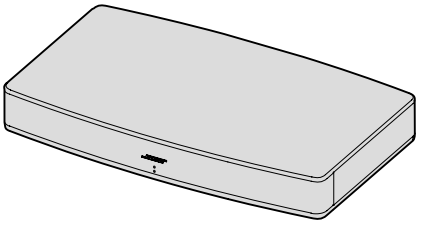
- Solo 15 series II systemには、金属製グリルとプログラム可能なユニバーサルリモコンが付属しています。
- Solo 10 series II systemには、布製グリルとリモコンが付属しています。

システムの特長

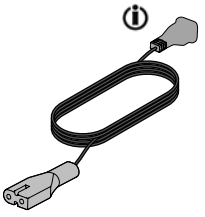
- 音声ケーブル1本で簡単に接続できます。
- 46V型から50V型までのほとんどの機種に対応し、テレビの下に置いたりテレビ台に設置したりできます。
- プログラム可能なユニバーサルリモコンを使って、テレビ、CATV/BS/CS用チューナー、システムの電源をボタン1つでオン/オフできます(Solo 15 series II system)。
- *Bluetooth*®対応機器から音楽をストリーミング再生できます。
- *Bluetooth*対応機器を最大8台までペアリングリストに保存できます。
- *Bluetooth*対応機器を同時に2台まで接続して、簡単に切り替えて使用できます。
- すっきりしたデザインのスピーカーで卓越した音質のパフォーマンスをお楽しみください。

内容物の確認

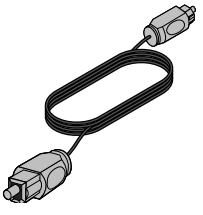
箱の中身を取り出して、下図の内容物がすべて同梱されていることを確認してください。



Solo 15/10 series II TV sound system

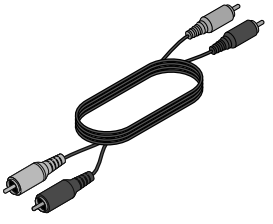


電源コード

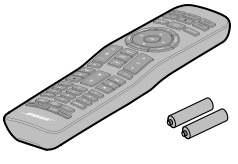


光ケーブル

同軸ケーブル
(ヨーロッパのみ)



3.5 mmステレオ音声ケーブル



Solo 15 series II system用ユニバーサルリモコン
(電池付属)

または

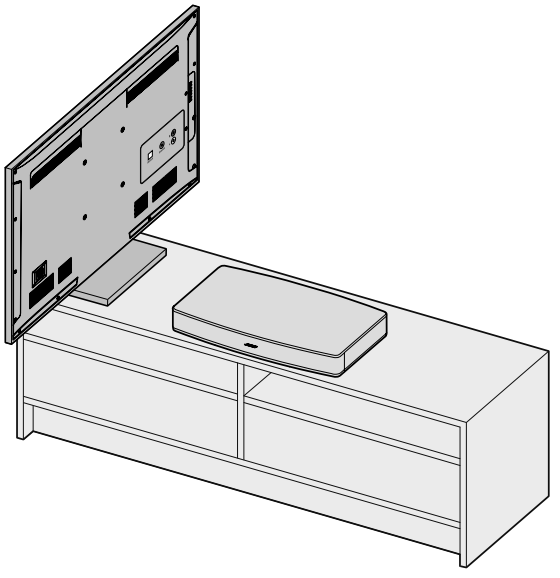
Solo 10 series II system用リモコン
(電池装着済み)

電源コードは2つ以上付属する場合があります。付属の電源コードは購入された国によって異なります。

注記: 万一、開梱時に内容物の損傷や欠品などが発見された場合は、そのままの状態を保ち、ただちにお買い上げになった販売店までご連絡ください。

システムを設置する

1. テレビを横にずらして、**音声出力**パネルが見えるようにして置きます。
2. テレビを置く場所にSolo 15/10 series II systemを設置します。



設置のためのガイド:

システムをキャビネット内や棚に置く場合は、最適な音響パフォーマンスを得るために、システムの前面をできるだけ棚の前面に近付けてください。

注意:

- システムを壁のすぐ前に設置する場合は、壁とシステム背面との間を2.5 cm以上離してください。
- いずれの設置方法においても、システム背面の通気孔を塞がないようにしてください。

ケーブルを選択する

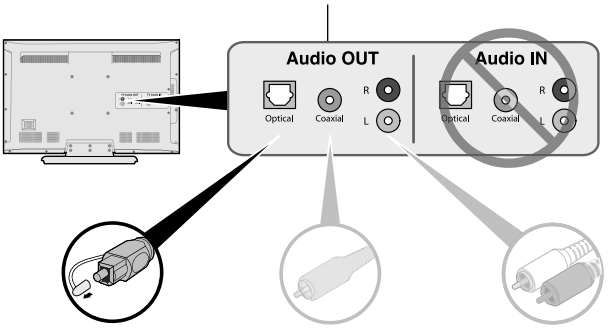
以下の3種類のケーブルからいずれかを選択して、テレビとシステムを接続します。接続には、光ケーブルが最適です。

ヒント: テレビに光ケーブルまたは同軸ケーブル用出力やアナログ音声出力がない場合は、15ページをご覧ください。

1. テレビの背面にある**音声出力**(デジタル)端子パネルを探します。

   注記: 音声ケーブルは音声出力端子に接続する必要があります。

お使いのテレビによっては、端子パネルの状態が図と異なる場合があります。端子の形状(光ケーブル)や色で確認してください。



オプション1:
光ケーブル(デジタル)
接続に最適です。

オプション2:
同軸ケーブル(デジタル)
光ケーブルを使用できない場合に使用します。

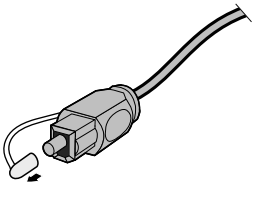
オプション3:
アナログ音声ケーブル(ステレオ)
光ケーブルまたは同軸ケーブルを使用できない場合に使用します。

2. 音声ケーブルを選択します。

テレビを接続する

音声ケーブルの片方のプラグを、テレビの正しい**音声出力**(デジタル)端子に差し込みます。

注意: 光ケーブルを使用する場合は、ケーブル両端のプラグから保護キャップを取り外します。プラグの向きを間違えて挿し込むと、プラグや端子が破損するおそれがあります。



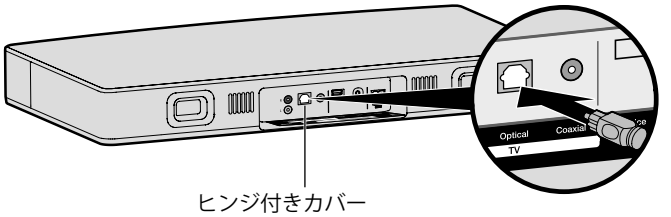
システムを接続する

音声ケーブルをテレビに接続したら、ケーブルの反対側をシステムに接続します。音声ケーブルは1本だけ使用してください。

オプション1: 光ケーブル(推奨)

注意: 光ケーブル両端のプラグから保護キャップが取り外されていることを確認します。プラグの向きを間違えて挿し込むと、プラグや端子が破損するおそれがあります。

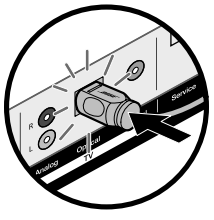
1. Boseロゴのある側を上にして光ケーブルのプラグを持ちます。
2. プラグの向きをシステムの**Optical**端子に合わせて、慎重に差し込みます。



ヒンジ付きカバー

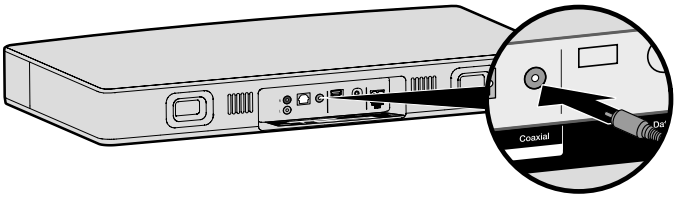
注記: 端子にはカバーが付いていて、プラグを差し込むとカバーが開きます。

3. カチッと言う音が聞こえるか、指先に感触があるまでプラグをしっかり差し込みます。



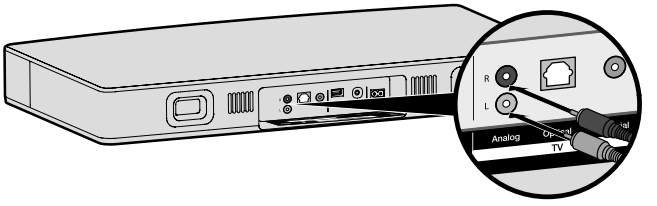
オプション2: 同軸ケーブル

同軸ケーブルの反対側のプラグをシステムの**Coaxial**端子に接続します。



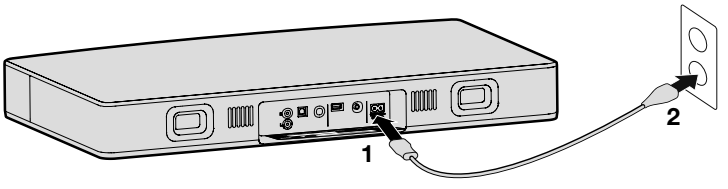
オプション3: アナログケーブル

1. 赤いプラグをシステムの**R**側端子に接続します。
2. 白いプラグをシステムの**L**側端子に接続します。



電源の接続

1. 電源コードの一端を**Power**端子に接続します。
2. 電源コードのもう一方をコンセントに接続します。
   システムからビープ音が聞こえます。



システムの上にテレビを設置する

テレビを持ち上げて、システムの上に置きます。以下のガイドラインに従ってください。

- Bose Solo 15/10 series II systemの上に設置可能な薄型テレビは、質量が34 kg以下、スタンドの幅が61 cm以下、奥行きが31 cm以下のものです。
- スタンドがシステム上面の中央に来るように、テレビを設置します。システムからはみ出さないように注意してください。
- スタンドが大き過ぎてシステム上面からはみ出る場合は、システムを扉の無いテレビ台の棚などに設置してください。音声ケーブルが接続できるように、システムをテレビに近付けてください。また、テレビをシステムの上側に壁掛けして使用することもできます。

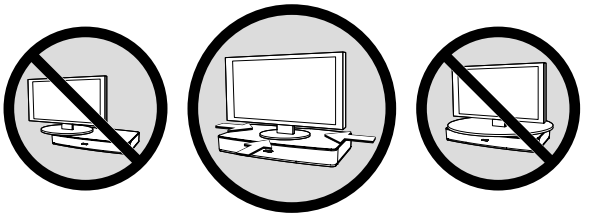
注意:

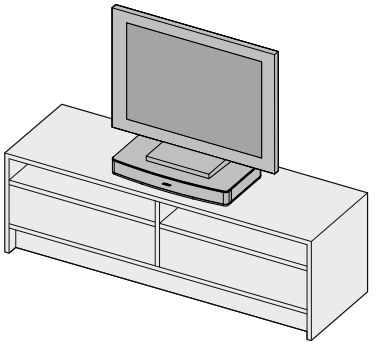
- ブラウン管タイプのテレビを、システムの上に設置しないでください。システムは、ブラウン管テレビ用には設計されておりません(非防磁)。
- スタンドがシステムからはみ出すようにテレビを設置すると、テレビが転倒してけがをする恐れがあります。
- テレビに転倒防止用ストラップが付属している場合は、テレビの設置完了後に、メーカーの指示に従って確実に取り付けてください。システムの上にテレビを設置する場合は、必ず転倒防止のための措置を取ってください。転倒防止用ストラップが付属していない場合は、家電量販店などでお求めください。

ワイヤレス信号の干渉を回避するには:

- ほかのワイヤレス機器から離れた場所に設置します。
- システムは金属製キャビネットや他のAV機器、熱源などから離れた場所に設置してください。キャビネットの中には置かないでください。

システムの設置例





テレビの内蔵スピーカーをオフにする

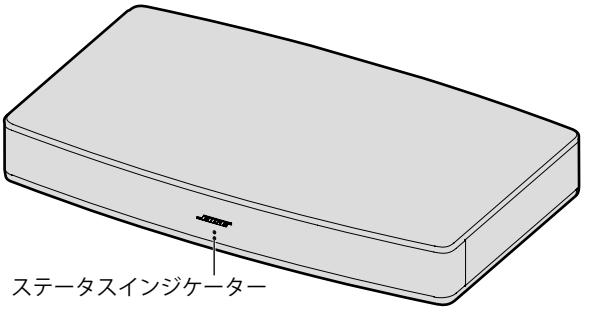
音響パフォーマンスを十分にお楽しみいただくためには、テレビの内蔵スピーカーをオフにしてください。

詳細については、テレビの取扱説明書をご覧ください。

システムの電源を入れる

1. テレビの電源をオンにします。
2. CATV/BS/CSチューナーやその他の外部機器を使用する場合は、これらの機器の電源もオンにします。
3. リモコンの電源ボタン(⏻)を押します。

   ステータスインジケーターが緑に点灯します。



4. システムから音が出ているかどうか確認します。

   注記: システムから音が聞こえない場合は、「故障かな？と思ったら」(18ページ)をご覧ください。

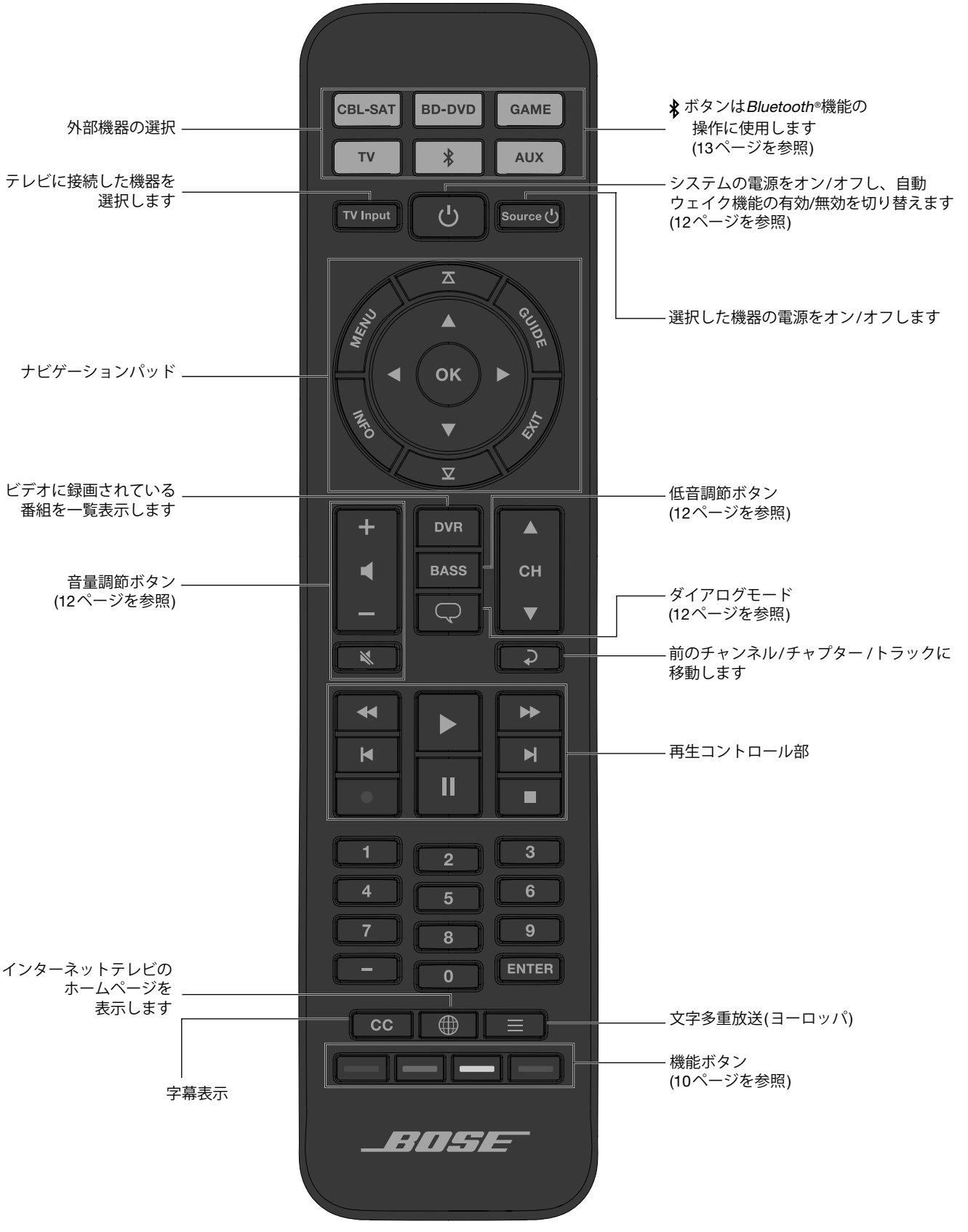
テレビの内蔵スピーカーがオフになっていることを確認する

1. リモコンのミュートボタン(🔇)を押します。
2. テレビから音が出ていないことを確認します。

   注記: テレビのスピーカーから音が聞こえている場合は、「故障かな？と思ったら」(18ページ)をご覧ください。

Solo 15 series II system用ユニバーサルリモコンを使用する

リモコンを使用して、システムに接続した外部機器の操作、システムの音量の調節、チャンネルの変更、再生機能の操作、CATV/BS/CSチューナーの機能の有効化などを行うことができます。



ユニバーサルリモコンの設定

機器のメーカーの設定コードを入力してユニバーサルリモコンを設定し、テレビ、DVD/Blu-ray Disc™プレーヤー、CATV/BS/CS用チューナー、ゲーム機、HDDレコーダーなどを操作できます。接続機器のコードは複数ある場合があります。次の手順を何度か実行して、正しいコードを確認してください。

接続機器のコードを確認する

1. 接続機器の電源をオンにします。
2. 付属の『ユニバーサルリモコン設定コード表』に、接続機器のメーカー名が記載されているか確認します。

接続機器のコードを入力する

1. リモコンの該当する接続機器ボタンを長押しして、6つの接続機器ボタンが点灯したら指を放します。

   たとえば、テレビを操作できるようにプログラムする場合は、TV ボタンを長押しして、6つの接続機器ボタンが点灯したら指を放します。

   該当する接続機器ボタンのみが点灯します。
2. 数字キーパッドを使って、機器のメーカーの設定コードを入力し、音量+ボタンを押します。

接続機器のコードをテストする

1. 接続機器の基本機能をテストします。機器ごとの手順に従ってください。
   - **テレビ**: チャンネルボタンを押します。MENU ボタンを押します。設定メニューが表示されます。◀ ボタンと ▶ ボタンを押して操作します。
   - **CATV/BS/CSチューナー**: GUIDE ボタンを押します。番組表が表示されます。◀ ボタンと ▶ ボタンを押して操作します。
   - **DVD/Blu-ray Disc™プレーヤー**: GUIDE ボタンを押します。設定メニューが表示されます。◀ ボタンと ▶ ボタンを押して操作します。
   - **ゲーム機**: ◀ ボタンと ▶ ボタンを押してメニューを操作します。
2. 接続機器の基本機能を操作できるかどうかに応じて、以下の操作を行います。
   - **リモコンで正しく操作できる場合:** EXIT ボタンを押して、設定を保存して終了します。
   - **接続機器を操作できない場合、またはリモコンが正しく機能しない場合:**
     - **接続機器ボタンが点灯する場合:** 音量+ボタンを押して、次のコードを試します。「接続機器のコードをテストする」の手順1と2を繰り返します。この手順は30回以上繰り返す必要がある場合もあります。機器のコードをすべて試し終わったら、6つのボタンが3回点滅します。
     - **接続機器ボタンが点灯しない場合:** リモコンのプログラムモードが解除されています。「接続機器のコードを入力する」の手順1と2、および「接続機器のコードをテストする」の手順1と2を繰り返します。

   ヒント: プログラムモードを解除すると、接続機器ボタンを押して該当する機器を操作できます。

注記: 一部の機器はユニバーサルリモコンに対応していない場合があります。詳細については、機器の取扱説明書をご覧ください。

電源ボタンをカスタマイズする

リモコンの ⏻ (電源ボタン)をカスタマイズして使用して、お使いのシステム、テレビ、CATV/BS/CS用チューナーの電源を同時にオン/オフすることができます。

1. テレビやCATV/BS/CS用チューナーを操作できるようにリモコンを設定します(「ユニバーサルリモコンの設定」を参照)。
2. **CBL-SAT** ボタンと **TV** ボタンを同時に10秒間長押しします。

   両方のボタンが3回点滅します。

CATV/BS/CS用チューナーとテレビをもう一度同期する

電源ボタンをカスタマイズして使用しているときに、CATV/BS/CS用チューナーとテレビの同期が解除され、電源が同時にオン/オフできなくなる場合があります。次の手順で、システムをもう一度同期してください。

1. 同期が解除された機器に対応する接続機器ボタンを押します。
2. **Source** ⏻ ボタンを押して、機器の電源をオン/オフします。
3. ⏻ ボタンを押します。
   機器の電源が同時にオン/オフされます。

外部機器を切り替える

操作の対象となる機器を切り替えるには、リモコンの接続機器ボタンのうち該当するものを押します。ペアリングした*Bluetooth*®対応機器の接続方法については、13ページをご覧ください。

注記: 操作を始める前に、機器を操作できるようにリモコンを正しく設定していることを確認してください。

1. 操作したい接続機器に対応する「接続機器ボタン(TV、CBL/SATなど)」を押します。

   接続機器ボタンが点灯します。
2. **Source** ⏻ ボタンを押します。

   接続機器の電源がオンになります。
3. **TV Input** ボタンを押して、適切なテレビ入力を選択します。

機能ボタン

リモコンの赤、緑、黄、青の各ボタンは、CATV/BS/CSチューナーや文字多重放送のカラーボタンの機能に対応しています。

- CATV/BS/CSチューナーの機能については、チューナーの取扱説明書をご覧ください。
- 文字多重放送では、画面のページ番号、見出し、ショートカットなど、カラーボタンで操作できる機能に対応しています。

Solo 10 series II system用リモコンを使用する

リモコンを使用して、システムの電源のオン/オフ、音量と低音域の調節、ダイアログモードの使用、*Bluetooth*®機能の操作などを行うことができます。

テレビと*Bluetooth*®対応機器を切り替える

テレビと*Bluetooth*対応機器の操作を切り替えるには、リモコンの接続機器ボタンのうち該当するものを押します。

テレビを操作するには、TVボタン(TV)を押します。

*Bluetooth*対応機器を操作するには、*Bluetooth*ボタン( )を押します。

*Bluetooth*対応機器から音楽をストリーミング再生する方法については、13ページをご覧ください。

Solo 15 series II system用ユニバーサルリモコン(オプション)

Solo 15 series II system用ユニバーサルリモコンを別途購入してご利用になれます。詳しくは、カスタマーサービスまたは販売店へお問い合わせください。専用ナビダイヤル 0570-080-021

他社製リモコンをプログラムする

CATV/BS/CSチューナーのリモコンなど、Boseリモコン以外のリモコンをプログラムしてシステムを操作できます。手順については、リモコンの取扱説明書や、ケーブルテレビや衛星放送のWebサイトをご覧ください。

プログラムが完了すると、電源のオン/オフや音量の調節など、基本的な機能を他社製リモコンで操作できるようになります。

音量の調節

リモコンで次のように操作します。

- +ボタンを押すと、音量が段階的に上がります。
- −ボタンを押すと、音量が段階的に下がります。
- 🔇 ボタンを押すと、音声がミュート(一時消音)またはミュート解除されます。

注記: テレビのスピーカーから音が聞こえている場合は、「故障かな？と思ったら」(18ページ)をご覧ください。

低音の音量を調節する

1. BASSボタン(BASS)を押します。

   ステータスインジケーターが白に3回点滅します。

2. リモコンで次のように操作します。
   - + ボタンを押すと、低音の音量が段階的に上がります。
   - − ボタンを押すと、低音の音量が段階的に下がります。
3. BASSボタン(BASS)を押します。

   ステータスインジケーターが白に3回点滅し、設定内容がシステムに保存されます。

注記: ニュースやトークショーなどの対話やトークのみの番組を最適な音質で楽しむ方法については、「ダイアログモード」をご覧ください。

低音の音量を元に戻す

リモコンの BASS ボタンを5秒間長押しすると、低音の音量が出荷時の設定に戻ります。

ダイアログモード

ダイアログモードを使用すると、システムの低音域の音量が自動的に抑えられ、ニュースやトークショーなどの対話やトークのみの番組を最適な音質で楽しむことができます。

リモコンのダイアログボタン(🗨)を押すたびに、ダイアログモードと通常モードのオーディオ設定が切り替わります。

ダイアログモードが有効になると、ステータスインジケーターがオレンジ色に点灯します。

自動ウェイク機能

音声信号を受信するたびにシステムの電源がオンになるように設定できます。

注記: システムを操作しないで60分間経過すると、システムの電源はオフになります。

リモコンの ⏻ ボタンを5秒間長押しすると、自動ウェイク機能のオン/オフが切り替わります。

自動ウェイク機能を有効にしてシステムの電源をオフにすると、ステータスインジケーターが暗いオレンジ色に点灯します。

Bluetooth®対応機器をペアリングする

Bluetooth®ワイヤレステクノロジーにより、*Bluetooth*対応のスマートフォン、タブレット、コンピューター、その他のオーディオ機器の音楽をシステムでストリーミング再生できます。

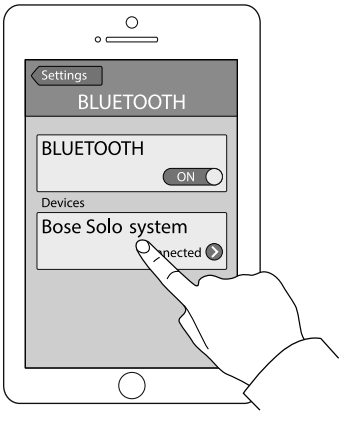
*Bluetooth*対応機器から音楽をストリーミング再生するには、機器とシステムをペアリングする必要があります。

1. リモコンの ᛒ ボタンを長押しして、*Bluetooth*インジケーターが青に点滅したら放します。

   機器をペアリングする前に、*Bluetooth*インジケーターが青に点滅していることを確認してください。

2. *Bluetooth*対応機器の*Bluetooth*機能をオンにします。

   ヒント: 通常、*Bluetooth*機能は設定メニューにあります。設定メニューは、ほとんどの機器でホーム画面に歯車のアイコン(⚙)で表示されています。



3. 機器リストから「**Bose Solo system**」を選択します。

   ペアリングすると、機器リストの**Bose Solo system**の名前が接続済みと表示されます。システムからビープ音が聞こえ、*Bluetooth*インジケーターが白に点灯します。

4. *Bluetooth*対応機器の音楽をシステムでストリーミング再生します。

機器をペアリングできない場合

システムの*Bluetooth*ペアリングリストの消去が必要となる場合があります(「システムのBluetooth®ペアリングリストを消去する」を参照)。リストを消去してから、もう一度ペアリングしてみてください。

詳しくは、「故障かな？と思ったら」(18ページ)をご覧ください。

ペアリングした*Bluetooth*®対応機器に接続する

Bluetooth®対応機器の音楽をシステムでストリーミング再生できます。

注記: システムのペアリングリストに複数の機器が保存されている場合、ペアリング済みの機器を接続するまでに1、2分かかることがあります。接続状況はシステムの*Bluetooth*インジケーターで確認できます(14ページを参照)。

1. リモコンの ᛒ ボタンを押します。

   システムは、最後にストリーミング再生していた2台の機器に接続されます。

2. 接続した機器で音楽を再生します。

ペアリングした機器の音楽をストリーミング再生できない場合

システムと機器の接続が解除されている場合があります。システムの*Bluetooth*インジケーターを確認してください。ペアリング済み機器がシステムの通信範囲外にある場合は、通信範囲内まで機器を移動します。

接続機器を切り替える

本システムにはマルチポイント接続機能が搭載されており、接続機器をシームレスに切り替えて音楽を再生できます。

システムには、最後にストリーミング再生した機器が2台接続されたままになっています。接続機器で音楽をストリーミング再生しているときに、一時停止して、もう1台の機器で音楽を再生することができます。

1. 音楽をストリーミング再生している機器を一時停止します。
2. もう1台の接続機器で音楽を再生します。
3. 手順1と2を繰り返して、接続機器を切り替えることができます。

システムの*Bluetooth*®ペアリングリストを消去する

Bluetooth®対応機器とシステムをペアリングすると、接続情報がシステムのペアリングリストに保存されます。機器に接続できない場合、ペアリングリストの消去が必要となることがあります。リストを消去したら、機器を再度ペアリングする必要があります。

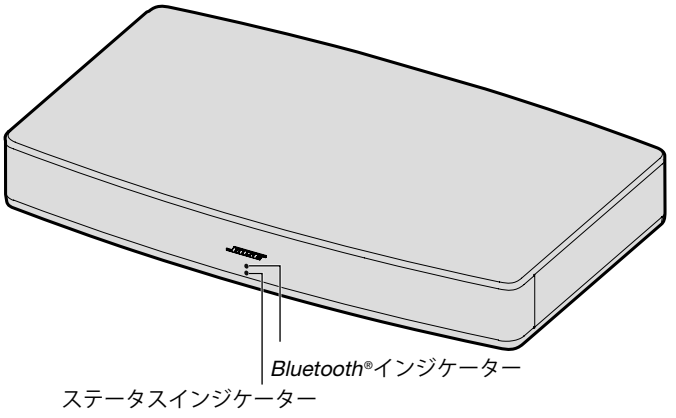
1. ᛒ ボタンを10秒間長押しして、*Bluetooth*®インジケーターが青に点滅したら放します。
2. モバイル機器で、*Bluetooth*メニューから**Bose Solo system**を削除します。

   システムからビープ音が聞こえ、機器をペアリング可能な状態になります(「Bluetooth®対応機器をペアリングする」を参照)。

システムの動作状態の確認

システムのインジケーターについて

システムの前面にあるステータスインジケーターと*Bluetooth*®インジケーターには、システムの動作状態が表示されます。



ステータスインジケーター

インジケーターの表示	システムの状態
消灯	電源オフ(スタンバイ)
緑	点灯: システムオン 点滅: 音声ミュート中
オレンジ	暗く点灯: スタンバイ、自動ウェイク機能有効 点灯: ダイアログモード 点滅: ダイアログモード、音声ミュート中
赤	システムエラー発生: カスタマーサービスへお問い合わせください。専用ナビダイヤル 0570-080-021

Bluetooth®インジケーター

インジケーターの表示	システムの状態
ブルー	点滅: ペアリング準備完了
白	点滅: 接続 点灯: 接続済み

以下のような場合は、別のセットアップ方法をお試しください。

- テレビに接続した機器から音が出ない
- テレビに光ケーブルまたは同軸ケーブル用出力やアナログ音声出力がない

テレビに接続した機器から音が出ない

一部のテレビでは、接続した機器の音声がシステムに送られない場合があります。このような場合は、別のセットアップ方法を使用して、機器を直接システムに接続してください。

トラブル	対処方法
テレビに接続した機器から音が出ない	3種類のケーブルからいずれかを選択して、機器とシステムを接続します。(16ページをご覧ください。)
テレビに接続した2台の機器から音が出ない	オプション1とオプション2を使用して、機器とシステムを接続します。(16ページをご覧ください。)

テレビに光ケーブルまたは同軸ケーブル用出力やアナログ音声出力がない

一部のテレビでは、光ケーブル、同軸ケーブル、アナログ音声用の出力がない場合があります。このような場合は、別のセットアップ方法を使用して、テレビをシステムに接続してください。

トラブル	対処方法
テレビにヘッドホン出力端子しかない	3.5 mmステレオ音声ケーブル(別売)を使用して、テレビを接続します。(17ページをご覧ください。)
テレビに音声出力がない	CATV/BS/CSチューナーなど、別の機器の音声出力をシステムに接続します。(16ページをご覧ください。)

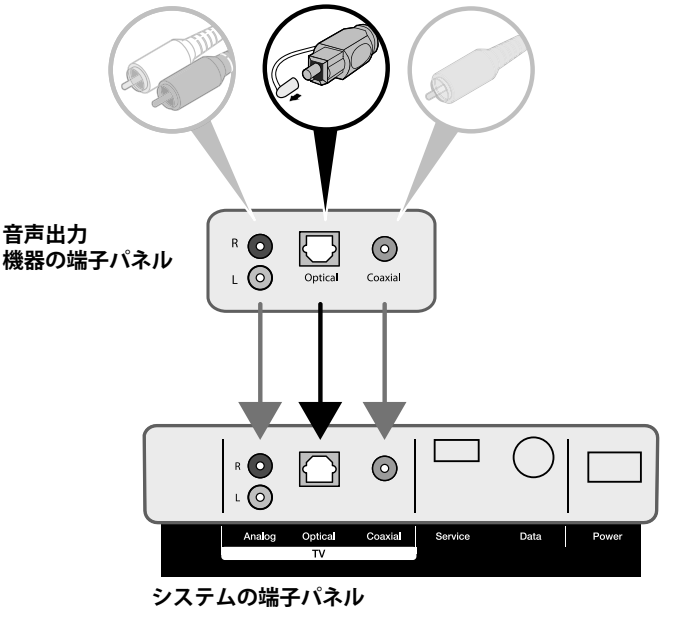
別のセットアップ方法

機器をシステムに接続する

DVD/Blu-ray Disc™プレーヤー、CATV/BS/CSチューナー、ゲーム機、HDDレコーダーなど、テレビに接続した機器の音声が聞こえない場合は、その機器をシステムに接続します。

注意: 光ケーブルを使用する場合は、ケーブル両端のプラグから保護キャップを取り外します。プラグの向きを間違えて挿し込むと、プラグや端子が破損する恐れがあります。

1. CATV/BS/CS用チューナーの背面にある**音声出力**(デジタル)端子を探します。



システムの端子パネル

2. 音声ケーブルを選択します。
3. CATV/BS/CS用チューナーの**音声出力**(デジタル)端子パネルとシステムを音声ケーブルで接続します。

   注記: HDMI™ケーブルなど、機器の映像ケーブルをテレビから外さないでください。

2台の機器をシステムに接続する

DVD/Blu-ray Disc™プレーヤー、CATV/BS/CSチューナー、ゲーム機、HDDレコーダーなど、テレビに接続した機器の音声が聞こえない場合は、その機器をシステムに接続します。音声ケーブルは機器ごとに1本だけ使用してください。

1. それぞれの機器の背面にある**音声出力**(デジタル)端子パネルを探します。
2. オプション1またはオプション2のいずれかを使用して、機器ごとに別の音声ケーブルを選択します。

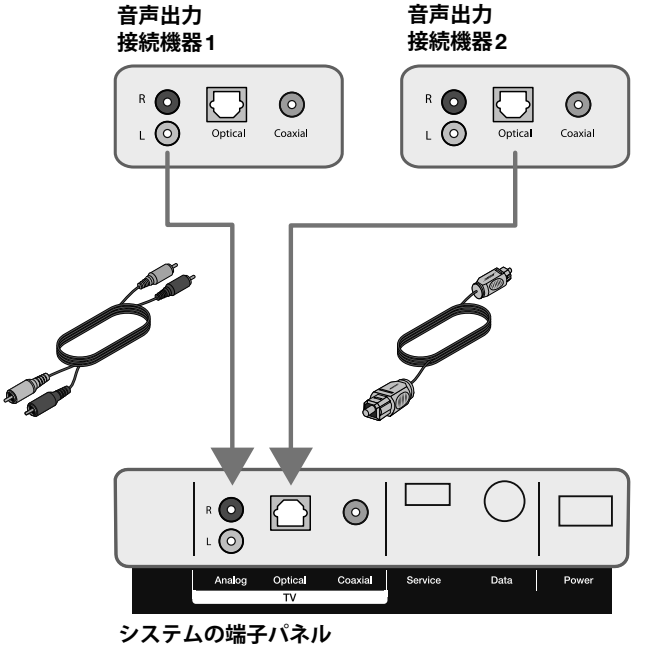
   注記: 必ず、オプション1またはオプション2のどちらかを使用してください。同軸ケーブルと光ケーブルは同時に使用できません。
3. 選択した音声ケーブルをそれぞれの機器の**音声出力**(デジタル)端子とシステムに接続します。

   注記: HDMI™ケーブルなど、機器の映像ケーブルをテレビから外さないでください。

オプション1

この図は、光ケーブルとアナログケーブルを使用して機器を2台接続する場合です。

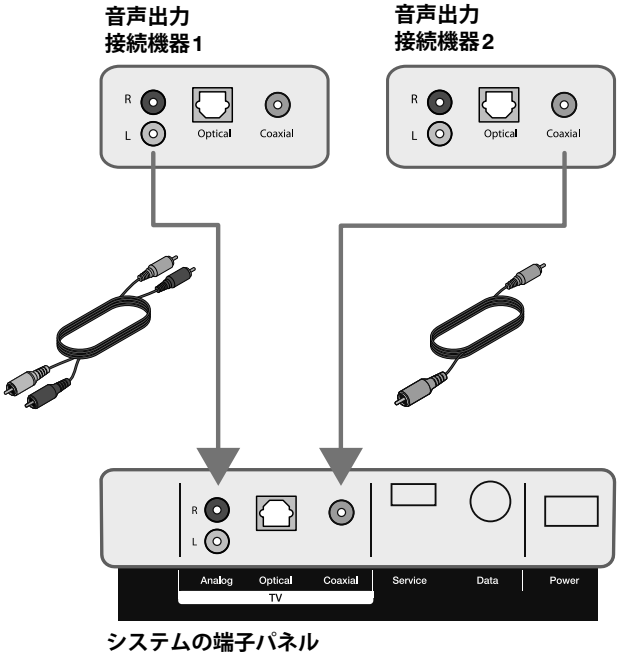
注意: 光ケーブルを使用する場合は、ケーブル両端のプラグから保護キャップを取り外します。プラグの向きを間違えて挿し込むと、プラグや端子が破損するおそれがあります。



システムの端子パネル

オプション2

この図は、同軸ケーブルとアナログケーブルを使用して機器を2台接続する場合です。



システムの端子パネル

システムに接続した2台の機器を使用する場合

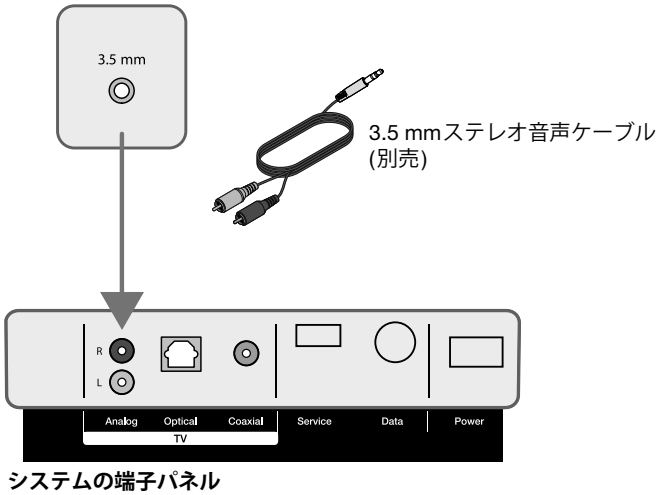
使用していない機器の電源はオフにしてください。機器の音声を再生するには、もう1台の機器をオフにする必要があります。

テレビのヘッドホン出力をシステムに接続する

テレビにヘッドホン出力しかない場合は、3.5 mmステレオ - ステレオピン変換ケーブル(別売)を使用してシステムに接続します。

1. テレビのヘッドホン出力端子にステレオ音声ケーブルのプラグを差し込みます。
2. 赤いプラグをシステムの**R**側端子に接続します。
3. 白いプラグをシステムの**L**側端子に接続します。
4. テレビの内蔵スピーカーがオンになっていることを確認します。詳細については、テレビの取扱説明書をご覧ください。
5. システムの音量を最適な状態にするには:
   - テレビの音量を75パーセント程度に調節します。
   - 次に、リモコンでシステムの音量レベルを設定します。

音声出力
テレビのヘッドホン出力端子
(または他の可変音声出力)



システムの端子パネル

お手入れについて

故障かな？と思ったら

トラブル	対処方法
電源が入らない	• 電源ケーブルの両端をしっかりと接続します。 • 電源ケーブルを通電しているコンセントに差し込みます。 • 電源コードをコンセントから抜き、1分待ってから差し直します。
音が聞こえない	• システムのミュートを解除します。 • 音量を上げます。 • 音声ケーブルがテレビの**音声出力**や**Audio OUT**などの端子に正しく接続されていることを確認します(音声入力やAudio INなどは使用しません)。 • 音声ケーブルは1本だけ使用してください。 • すべてのケーブルが正しくしっかりと接続されていることを確認します。 • テレビの入力を正しく選択します。 • テレビの音声出力を有効にして、**ステレオ**または**5.1 chオーディオ**などの設定を正しく選択します。詳細については、テレビの取扱説明書をご覧ください。 • 別のセットアップ方法を使用します(16ページを参照)。 • 機器を2台接続する場合: – 使用しない方の機器の電源をオフにします。 – 光ケーブルと同軸ケーブルを使用していないことを確認します。 • システムをテレビの「可変音声出力」に接続している場合は、テレビの内蔵スピーカーがオフになっていて、テレビの音量が最大の75%程度に設定されており、さらにテレビが消音状態でないことを確認します。 • テレビのヘッドホン出力に接続している場合は、テレビの音量を最大まで上げます。 • 電源コードをコンセントから抜き、1分待ってから差し直します。
Bluetooth®対応機器の音楽を再生できない	• システムでの操作: – 機器をペアリングします(13ページを参照)。 – システムのペアリングリストを消去します(13ページを参照)。 – 別の機器をペアリングしてみてください。 • *Bluetooth*対応機器での操作: – *Bluetooth*機能を無効にしてから、再度有効にします。 – *Bluetooth*メニューからシステムを削除します。もう一度ペアリングします。 – 別の音楽ソースを使用します。 – *Bluetooth*対応機器の互換性を確認します。*Bluetooth*対応機器の取扱説明書を参照してください。 • システム、モバイル機器、音楽再生アプリの音量を上げます。 • 正しい機機を使用していることを確認します。 • 複数の*Bluetooth*対応機器を接続している場合は、まず機器のストリーミング再生を一時停止します。 • 使用していない*Bluetooth*対応機器の接続を解除します。 •「音が聞こえない」または「音が歪む」を参照してください。
音が歪む	• システムとテレビ(または他の接続機器)のケーブルをしっかりと接続します。 • システムをテレビの「可変音声出力」に接続している場合は、テレビの音量を小さくしてください。 • 別のセットアップ方法を使用します(16ページを参照)。 • 電源コードをコンセントから抜き、1分待ってから差し直します。
リモコンが正しく機能しないことがある、またはまったく機能しない	• リモコンに電池が正しく装着されているかどうか、および交換の必要がないかどうかを確認します(19ページを参照)。 • リモコンをまっすぐシステムに向けます。 • リモコンの音量ボタンまたはミュートボタンを押して、ステータスインジケーターが点滅することを確認してください。 • 電源コードをコンセントから抜き、1分待ってから差し直します。
テレビから音が出る	• テレビの内蔵スピーカーをオフにします(8ページを参照)。 • テレビの音声をミュートするか、音量を下げます。
ステータスインジケーターが赤くなっている	• システムエラーが発生しました。カスタマーサービスへお問い合わせください。専用ナビダイヤル 0570-080-021

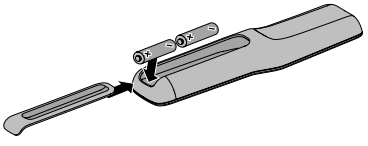
リモコンの電池を交換する

Solo 15 series II systemのリモコン

リモコン操作ができなくなったり、操作できる距離が短くなった場合には、2本とも電池を交換してください。アルカリ乾電池をご使用ください。

1. リモコンの裏側にある電池カバーをスライドして開きます。
2. 2本の乾電池を取り出します。

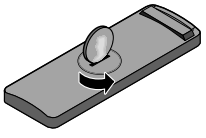
   使用済み電池の処分方法については、お住まいの地域の関連法令に従ってください。
3. 単三形アルカリ乾電池2本を入れます。電池ケースに表示されている＋と－の向きと、乾電池の＋と－の向きを正しく合わせてください。
4. 電池カバーをスライドして元に戻します。



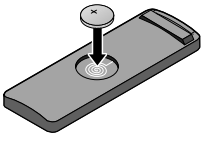
Solo 10 series II systemのリモコン

リモコン操作ができなくなったり、操作できる距離が短くなった場合には、電池を交換してください。リチウム電池をご使用ください。

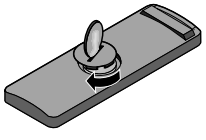
1. 硬貨などを使用して電池カバーを少し左に回します。



2. カバーを取り外して使用済みの電池を取り出し、＋極の表示を上に向けて新しい電池(CR2032またはDL2032)を装着します。



3. カバーを元に戻し、右に回してロックします。



⚠ **警告:** 電池を飲み込まないでください。化学薬品によるやけどを負う恐れがあります。この製品に付属のリモコンにはボタン電池が使用されています。ボタン電池を飲み込むと、体内で2時間以内に深刻なやけどを負って生命を脅かす恐れがあります。電池はお子様の手の届かないところに保管してください。バッテリーカバーがきちんと閉まらない場合は、リモコンの使用をやめてお子様の手の届かないところに保管してください。電池を飲み込んだり、身体の中に入ってしまったと思ったら、すぐに医師の診断を受けてください。リモコンの電池を誤って取り扱ったり、誤って交換した場合、破裂や火災、化学物質で皮膚が侵される危険性があります。また、分解や充電、焼却を行ったり、100℃以上の熱を与えないようにしてください。3Vリチウムボタン電池の CR2032またはDL2032に交換してください。使用済みの電池は速やかに処分してください。

お手入れについて

- システムの外装は柔らかい布でから拭きしてください。
- システムの近くでスプレーを使用しないでください。溶剤、化学薬品、またはアルコール、アンモニア、研磨剤などを含むクリーニング液は使用しないでください。
- 開口部に液体が入らないようにしてください。

お問い合わせ先

トラブル解決のための詳細情報については、ボーズ株式会社カスタマーサービスにお問い合わせください。
専用ナビダイヤル 0570-080-021

保証

製品保証の詳細は (http://bose.co.jp/rep)をご覧ください。製品のご登録をお願いいたします。登録は、http://global.Bose.com/registerから簡単に行えます。製品を登録されない場合でも、保証の内容に変更はありません。

本製品に付属の保証書に記載された内容は、オーストラリアおよびニュージーランドでは適用されません。オーストラリアおよびニュージーランドでの保証の詳細については、弊社Webサイト(www.bose.com.au/warrantyまたはwww.bose.co.nz/warranty)をご覧ください。

仕様

電源定格

100V ～ 240V⎓ 50/60 Hz 50W

754065-0010

BOSE®
Better sound through research®

©2015 Bose Corporation, The Mountain,
Framingham, MA 01701-9168 USA
AM754065 Rev. 00